

歴史香る 文化の町



【東北最大級の山城跡】

若松城から西側、磐梯山の反対方向にひときわ大きくどっしりとした白鳳三山が見渡せます。この白鳳三山とは観音山・羽黒山・岩崎山をいいます。

「向羽黒岩崎城」は、岩崎山を中心に羽黒山と観音山を出城として、南北1km余りを城域とする巨大な山城です。若松城まで5.5kmと近く、中間に大川(阿賀川)が流れ、要害堅固で、中世の会津を支配した名族「芦名家」の本拠にふさわしく映ります。

当時若松城は、黒川城と呼ばれており、「向羽黒岩崎城」は黒川城の有事の際に立て籠る「詰の城」であったといわれています。斜面は急崖で、流紋岩が露呈し、枯山水庭を彷彿とさせる岩が、険しい景観をつくっています。芦名盛氏の時代、画僧雪村がたびたび滞在し、この巖かな景色が雪村の山水画に大きな影響を与えたことは想像に難くありません。雪村は盛氏に絵を教え、向羽黒岩崎城の障壁画に筆をふるったと伝えられています。

現在では、「白鳳山公園」として整備され、大川羽鳥県立自然公園に属し、自動車道路・遊歩道・フィールドアスレチックなどを備えた観光名所となっており、国指定文化財に向けた条件整備、有効的な保存・活用が進められています。

【左下り観音】

会津札所二十一番のお堂で、左下り山の山上約800メートルに建立されています。

岩と堂とがしっかりと支え合い、千年以上もの間、風雪に耐え、庶民の信仰を仰いできました。みごとな三層閣で、五間(約9m)四方、高さ四丈八尺(約14.5m)、東向きで廻り縁があります。縁先に立てば遠く磐梯山を望み、近くに大川(阿賀川)の清流を見下ろす景勝地にあります。

天長七年(830年)徳一大師の建立(一説には弘法大師)といわれ、観音堂には石像の秘仏が安置され、俗に頸無観音ともいわれています。

会津藩の教育文化に尽力した学僧如黙がここに住み、花月を友としたところと伝えられています。